

# 研究部ニュース 2023年度第2号

2023年12月22日(金)

発行者：研究部

平素は本校の教育及び研究活動にご協力いただきありがとうございます。9月から始まった2学期もまもなく終了です。研究活動も順調に進めています。

## エクステンション研修について

7月26日(水)、27日(木)の2日間で合計4講座の研修会を開催しました。各講座の内容の報告は、本校ホームページの<各分掌>⇨<研究部>よりご覧ください。エクステンション研修では、地域の学校の特別支援教育の専門性を向上するための研修として、本校教職員のみならず、大阪府内を中心に広く参加を呼びかけ、オンラインと対面のハイブリッドで研修を実施しました。本校の教職員にとっては、1学期の実践を振り返りながら学ぶ貴重な時間になりました。

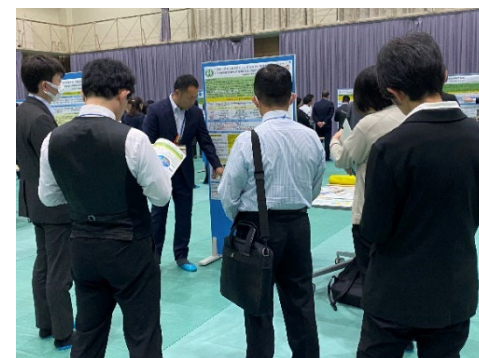
今年度も講師の先生をお招きして、たくさんの方々にご参加いただき、無事に開催できました。来年度も本校の特別支援教育のセンター的機能の一環として継続して実施します。



## 五校園共同研究発表会について

附属平野五校園では、令和3年度より『一人ひとりの多様な可能性を広げる評価の在り方(2)～主体性が働く【探究学習】プログラムと学習評価のモデル開発をめざして～』という研究主題を設定し、3年間にわたり平野五校園が協同的に研究を進めてきました。3年次にあたる今回の共同研究では、これまでに作成した「主体性コモン・ルーブリック」にリフレクションの項目を新たに追加して整理をしておし、そのコモン・ルーブリックに照らしながら探究学習の効果的なプログラム開発を行なうことを目的として幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校が各校園で実践を行い、対面で協議を行ってきました。

11月4日(土)に開催された平野五校園共同研究発表会では、本研究の主幹校である附属平野高等学校から基調提案がされた後、各校園の研究成果の発表をポスターセッション形式で行ないました。幼稚園からは『「なんでかな？」「おもしろいな」から広がる幼児の探究する姿』を含め3本、小学校からは『やさいはかせになろう！～ミニトマトの栽培～』を含め6本、中学校からは『私は何を学んできたのか？～学習者としての自分を見つめよう～』を含め4本、高等学校からは『課題研究論文指導の手立て～フィードバックシートを使った論文指導～』を含め4本、本校からは『主体的に学習に取り組もうとする気持ちを育むための手だて～3年後の姿(意識的に体を動かせる)に向けた自立活動の取り組み～』を含め3本、計20枚のポスターを使っての発表になりました。



各校園の発表後には、本学教員養成課程の4名の先生方によるパネルディスカッションが行われました。発表会後のアンケートでは参会者の皆様

からご助言と温かいお言葉をいただきました。

平野五校園共同研究も今年度で 19 年目を迎えました。感染症対策をしながらでしたが、今年度より集会や発表会を対面実施することができました。このテーマにはここで一区切りをつけ、次年度からまた新たなテーマを掲げて、附属平野五校園で力を合わせて研究に邁進したいと考えています。



## 全校研究について

昨年度から3年間の研究主題を「知的障害特別支援学校における教育課程の編成と評価の一体化」と設定し、教育課程の編成と客観的評価の道筋を検討しています。副題を1年次は「授業の見直しに基づく個別最適な学びの基礎作り」、2年次は「個別最適な学びの実践に向けた系統的・組織的な授業計画の視点づくり」、3年次は「個別最適な学びを実現するための評価の観点づくり」とし、「教育課程の編成と評価の一体化」を確立して、児童生徒にとっての個別最適な学びの実現を目指しています。

今年度は、研究1年次に作成した「学習指導案の見直しの観点表」を活用した授業の見直しと、「シラバス」の検討を進めました。本校の学習指導計画であるシラバスを作成し、それを活用することで、学習内容の系統性を保ちながら児童生徒の実態を踏まえた指導計画を立てることができ、それが、個別最適な学びができる授業づくりにつながっていくと考えています。

今年度は、2月10日（土）に研究大会（2年次）を予定しています。当日は、4限目の授業を公開し、午後には、中学部数学の授業について研究協議を行う予定です。そこでは、全国の先生方に本校の研究を発信するとともに、ご意見やご質問を受けて、今後の本校の研究活動に活かしていきたいと考えています。

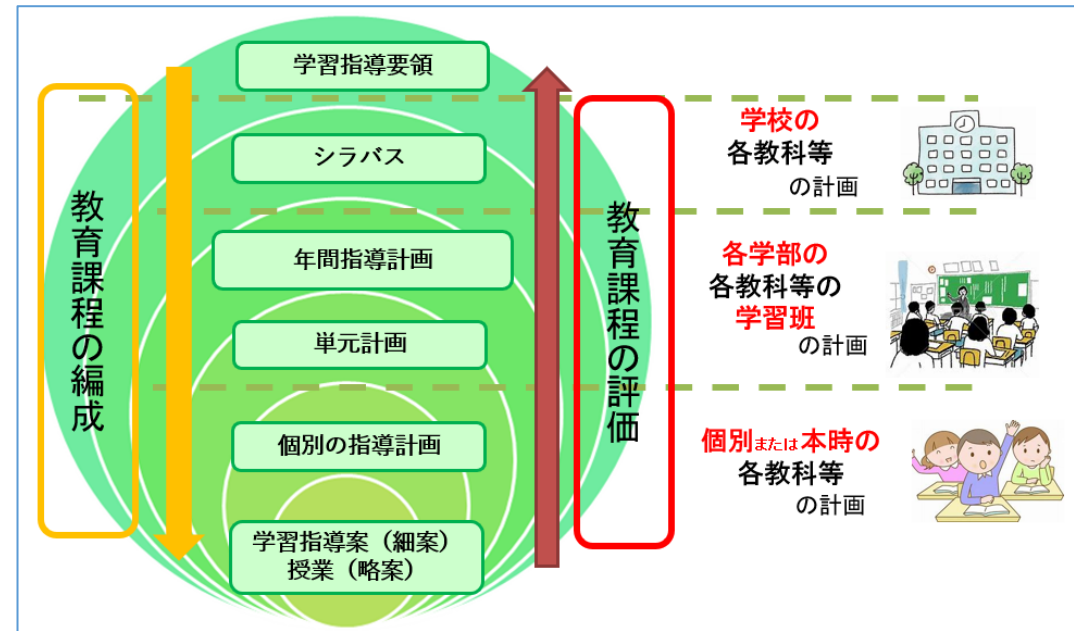


図1 教育課程の全体図

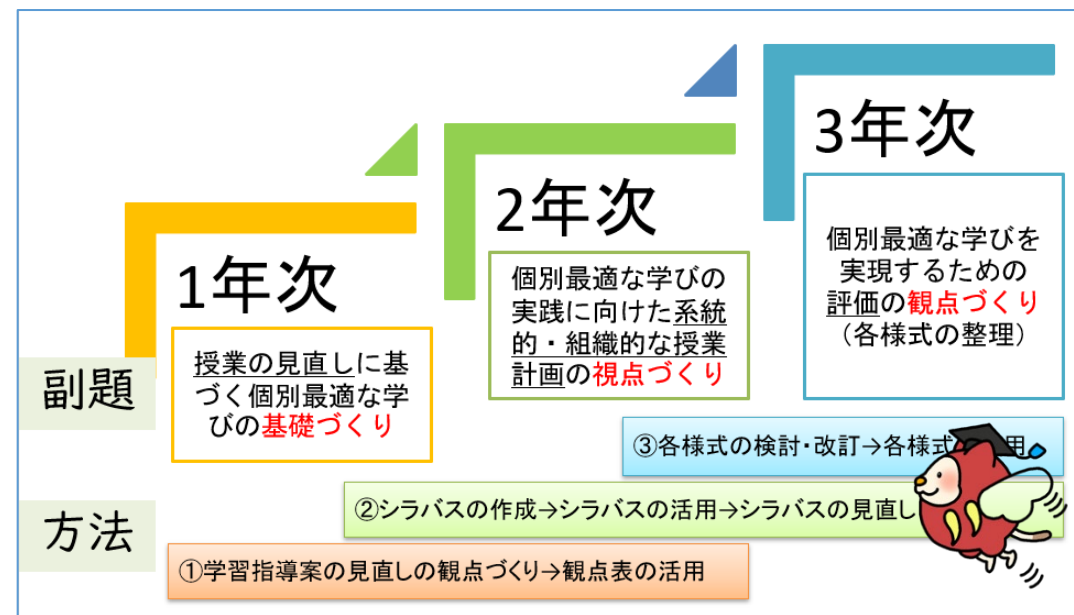


図2 本校研究主題の副題と研究方法